

東京学芸大学・先端教育人材育成推進機構・外国人児童生徒教育推進ユニット 2025
オンライン研修「多様性が活かせることばの教育 2025」 報告

趣旨

文化間移動をした子どもたちが、その多様性や出身国・地域等での経験を活かし、学級・学校・地域社会の一員としてその力を発揮できることばの教育について考える場として、「子どもたちの多様性が活かせることばの教育」をテーマに、2種類の研修を実施する。新たな視点とアイデアで、学びの場・内容と活動、そして支援のあり方を議論し、かれらをエンパワーメントすることばの教育について具体的に構想することを目的とする。

研修 A では、高等学校における日本語学習支援に関して環境づくりという視点から捉え直して学ぶ。研修 B では、子どもたちが成長・発達を十全に送るための教育のシステムを考えるために、幼・小・中・高での学習の連続性を意識したことばの教育について検討する。両研修とも、テーマに関連する情報の提供（講義）・現場の取り組み実践例・参加者間の交流／ワークショップで構成する。

研修 B「幼・小・中・高の学びの連続性を保障することばの教育」

＜ねらい＞

多様な言語的文化的背景をもつ子どものことばの教育では、心身の成長発達や子どもたちを取り巻く環境をふまえながら、来日初期から子どもたちが自分らしく、もてる力を十全に伸ばしながら成長するための教育を実現することが重要である。本研修では、幼・小・中・高の各教育段階で子どもの発達の状況に応じて教育内容・方法を探るとともに、長期的な視点で校種間の学びの連続性を保障する教育・支援について考える。学校でのスムーズな受け入れとその体制づくり、文化的な適応や地域支援との関わり、そして、初期段階のコミュニケーションから教科学習、そして自己実現のための日本語の力の育成を目指す日本語指導について、考え方を知り、教育現場の実践事例を通じて理解を深める。さらに、ワークショップ型の活動を通して、明日からの指導・支援に生かせるようアイデアを具体化する。内容は、初めて日本語指導を担当することになった教師や支援活動を始めた支援者を主な参加者として構成してある。

なお、参加にあたっては、本ユニットが作成した動画（参加者限定公開）の事前視聴による事前学習を求める。

1 研修 B 報告

(1) 第1回研修 概要

日時	2025 年 6 月 8 日（日）13：30 - 16：00
主たる受講者（対象）	「今年、初めて」、「まだ、経験は数年」という日本語指導・支援に携わる学校教員・支援員・支援者の方

テーマ	「子どもの持てる力と経験を新たな学びにつなぐ～初期支援と活動のアイデア～」
ねらいとする 資質・能力※	<捉える力> ア 子どものシグナルを見逃さず、文化間移動と発達の視点をもってその困難さを理解することができる。 <育む力> ケ 外国人児童生徒等の受け入れ体制・指導体制に応じて、指導・支援を行うことができる。 コ 第二言語習得や教育方法に関する知識を踏まえ、子どもの年齢的な発達の違いを考慮した日本語や教科の指導・支援をすることができる。 <つなぐ力> テ 外国人児童生徒等教育を学校の教育課題に位置づけ、学校全体で取り組むよう働きかけることができる。
研修内容	1 講義で、外国人児童生徒等の受入れ体制づくりと初期段階の日本語指導・学習支援について学ぶ。 2 事例報告（豊橋市の初期支援コース「みらい西」の日本語指導）から、受入れ時に考慮すべき点や日本語指導の具体について学ぶ。 3 グループワーク「あ～さ行の文字でできる語彙集め」を通じて、文字学習と語彙学習、年齢的な発達への配慮について考える。
事前学習課題 （参加に当たって）	次の研修用動画の視聴 東京学芸大学先端教育人材育成推進機構外国人児童生徒教育推進ユニット（2025）『初めて教える人のための 田中先生と学ぶ子どもの日本語指導』 講座1 外国人児童生徒の受入とその体制 パート4 「国・地方自治体の方針・制度・受入体制（国レベル）」 講座2 学びをつなぐ 就学前・小・中・高等学校における指導・支援 パート1 「日本語指導・学習支援の仕組み」 パート2 「日本語指導・学習支援の仕組み～バネッサさんの時間割」 パート4 「文化間移動をする子どもの学び～ライフコースの視点」
	講座3 子どもたちの日本語教育 パート2 「子どもたちの日本語教育～具体的な内容5つのプログラムについて」 パート4 「子どもたちの日本語教育～年齢による学び方・教え方の違い」

※文部科学省

「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」の「豆の木モデル」（日本語教育学会 2019）にもとづく

（2）研修B 第1回 実施計画

活動展開	具体的な内容・活動	利用した資料等
①説明「研修テーマ、趣旨、目標」	・本研修の趣旨 ・ねらいとする資質・能力 ・研修終了後の振り返りの実施	研修趣旨のスライド資料 齋藤（2011）／齋藤（2013）／齋藤（2022）
②講義「来日直後の受入れ体制と初期日本語支援」	・「日本語指導が必要な児童生徒」とは	講師作成スライド 参考文献；

1. 概要	・子どもの日本語教育に関する施策等 ・受け入れにあたって (1) 事前面談上の注意 (2) 関わる人々の連携と工夫	文部科学省(2024)／文化庁(2019)／文部科学省「かすたねっと」(n. d.)／かながわ国際交流財団(2022)／文部科学省(2019)
2. 学びの連続性 ～子どもたちの学びをつなぐ～	・「接続期」とは？ ・プレスクールの実践 ・生活的概念から科学的概念へ ・ライフコースの視点	参考文献； 内田(2021)／坪井(2023)／ヴィゴツキー(2001)／本山(2019)
3. ことばのコース設計	・年齢的な発達に配慮したコース設計の必要性 ・日本語プログラム	参考文献； 中島(2016)／文部科学省(2019)／本ユニット(2023)「高等学校の日本語指導・学習支援のためのガイドライン」／齋藤(2011)
③事例報告 日本語初期段階の学習支援	報告：「学びの連続性」と「自分らしく」～小学生と中学生が一緒に学ぶ『みらい西』の事例より～ 豊橋市立羽田中学校、豊橋市教育委員会初期支援「みらい西」教諭 坂柳言衣氏 質疑応答： 口頭で・チャットへ書き込みで	講師作成スライド 参考資料； 豊橋市教育委員会 他
④グループワーク	グループワーク ①全体：作業の説明、個人作業 ②グループ（4人前後）： 個人作業の共有	グループワーク課題 <個人作業> あ行からか行までの15文字を使って、できるだけたくさんの単語を作ってください。
⑤振り返り	アンケート記入 ・満足度 ・今後の活用のアイデア ・資質・能力の向上の有無	<グループで> 各自作った単語を紹介し、その後、小学校低学年向きの単語と中学生向きの単語を選んでください。
参考文献・資料 ・内田千春(2021)「就学前教育・保育の視点から教育格差を考える一言語文化的に多様な子どもたちと接続期の支援―」『異文化間教育』54号 ・ヴィゴツキー, L. S.／柴田義松(訳)(2001)『新訳版・思考と言語』新読書社 ・文部科学省「かすたねっと」https://casta-net.mext.go.jp/		

- ・ かながわ国際交流財団(2022) 外国につながる子どもたちの支援のための動画シリーズ「国際教室から学校全体へ」 https://www.youtube.com/watch?v=SA5h_xaoTAo
- ・ 齋藤ひろみ (2011) 「外国人児童生徒のための支援ガイドブック」 凡人社
- ・ 齋藤ひろみ (2013) 「文化館移動をする子どもたちへの日本語教育」 『月間国語教育研究』 No. 490 p17-18
- ・ 齋藤ひろみ (2022) 「外国人の子どもを取り巻く問題」 柘植雅義監修・齋藤ひろみ編著『外国人の子どもへの学習支援』 金子書房
- ・ 坪井牧子 (大垣市プレスクール) (2023) 「きらきら教室」とは？ー「つながる」学習と支援をめざしてー 東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構 外国人児童生徒教育推進ユニット 令和5年度外国人児童生徒等教育研修 第3回資料
- ・ 中島和子 (2016) 『完全改訂版バイリンガル教育の方法ー12歳までに親と教師ができることー』 アルク
- ・ 本山方子 (2019) 「自律的な学習への転機」 外山紀子・安藤智子・本山方子編『生活のなかの発達ー現場主義の発達心理学ー』 新曜社
- ・ 東京学芸大学先端教育人材推進機構 外国人児童生徒教育推進ユニット(2023) 『文部科学省委託「高等学校における日本語指導体制整備事業」 高等学校の日本語指導・学習支援のためのガイドライン』
https://kodomonihongo.ugakugei.ac.jp/.assets/M22_koko_nihongo_guideline.pdf
- ・ 豊橋市教育委員会 HP「初期支援コース」
http://www.gaikoku.toyohashi.ed.jp/shokishien/mirai_kibou.html
- ・ 文化庁「日本語教育の推進に関する法律について」(2019)
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/shokan_horei/other/suishin_houritsu/pdf/r1418257_01.pdf
- ・ 文部科学省(2019) 『外国人児童生徒受入れの手引き』(改訂版)
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm
- ・ 文部科学省(2024) 「日本語指導が必要が外国人児童生徒の受入状況に関する調査(令和5年度)結果」 https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/09/1421569_00006.htm

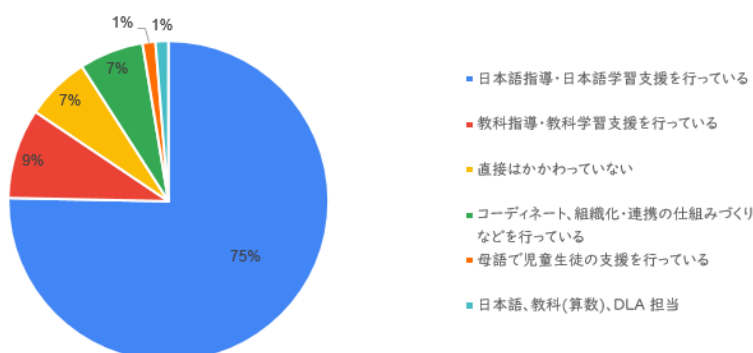
3 成果

参加申し込み数：128 当日参加者数：112 アンケート協力者数：77 (回収率 69.4%)

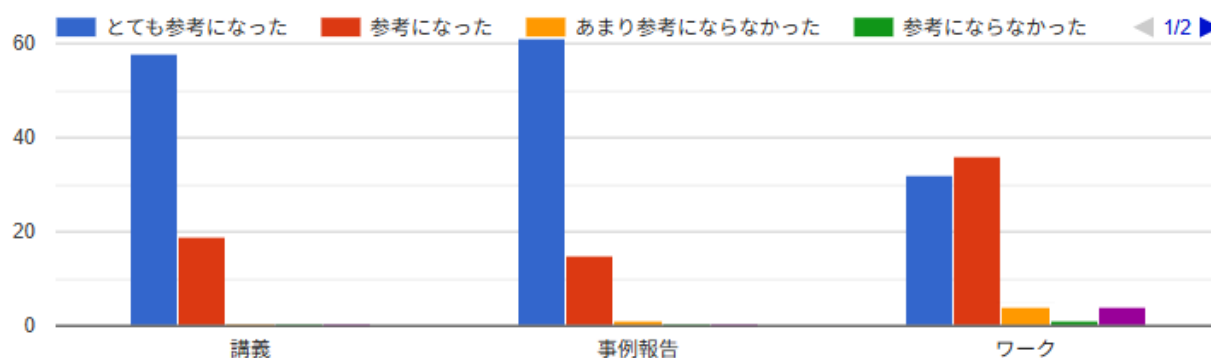
<アンケートより>

①参加者の背景(立場)

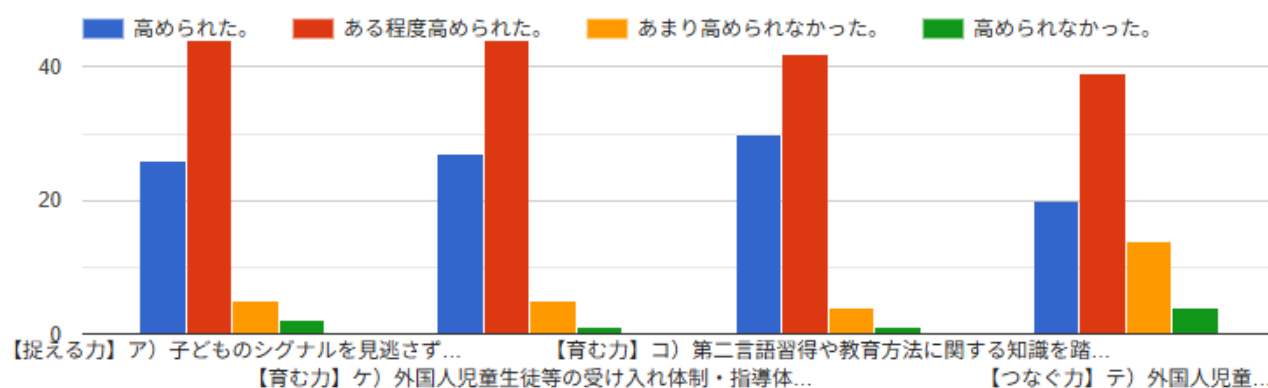
<参加者の子どもの日本語教育への関わり>



②満足度「参考になったか」



③めあてとした資質・能力の向上について



④寄せられた参加者の声（自由記述回答より）

・講義では、動画の内容を振り返りながらコース設計の方法、生活的概念や科学的概念への学びのつながりがとても参考になりました。事例報告では、初期指導の様子やプログラムなど、初期指導の方法だけでなく、どのような力に結びつくか、実際の授業の流れが参考になりました。ワークでは、異なる意見を聞き、私自身が考えることができない語彙や考えを受けたことで、子供も同じように語彙の幅を広げて、たくさんのことを吸収していくのではないかと思います。

・初期支援で年齢が違う子供たちに対して指導側が考慮、配慮しなければならないことを具体例を挙げていただき、よくわかりました。また、グループワークを通じて、一つの課題に対して指導方法についてしっかり向き合うことが必要だということ、それから先生のコメントで、複数で学ぶことのメリット、を改めて感じました。

・初期指導教室の取り組みを教えていただいたのが良かったです。どのような活動をされているかを実際に触れたのは初めてでした。在籍学級とのつながりなど大変参考になりました。

・まず、文化間移動と発達の視点を持って、子どもの困難さを理解し、現場で日本語支援をされている先生方には、その視点をお伝えして、指導のアドバイスができるのではない

かと思いました。また、自分が関わっている自治体の受け入れ体制を見直し、初期指導を充実させて、課題を解決していきたいと思いました。さらに、今日学んだことや、みらい西の実例を市全体の教育課題にどう対応できるかを考え、考えられる取組や活動、指導法などを明日から働きかけていきたいと思いました。

・講義＝動画視聴も含めて初期指導の際の留意点を整理できた。
事例報告＝具体例をたくさんご紹介いただき、質疑応答も含めてとても参考になった。「ミッションポッシブル」のような活動もしたことがあるが、これを定期的に行う活動として担任の先生やクラスメートにも知ってもらい協力してもらえるのはとてもいいと思った、ぜひやってみます。

・初期集中指導の具体的な様子について知ることができてよかったです。週に1回の登校日はとても緊張すると思いますが、「なにかを達成する」というミッションがあることで、モチベーションにつながっているのではないのでしょうか。そのような配慮がされていることに感銘を受けました。なかなか気づきにくいところですが、細やかな配慮をこれからも続けていきたいと思いました。在籍級へつなげるための確認項目など、参考になりました。

・ご講義の中にも具体的な事例が盛り込まれ参考になりました。実践事例では、初期教室のハウツーを丁寧に教えてくださり在籍校との連携の深め方を見直す機会となりました。最後のワークショップは大変面白く着眼点を整理して下さったことで学びを深めることができました。

・現在はNPOでの支援を行っており今回の事例紹介を具体的に活かすことはあまりないのですが、関わる機会を積極的に作り、その際に参考にしたいと思いました。また、谷先生の「どの段階でも子どもが自分を肯定できる」という言葉をいつも忘れずに活動していこうと思いました。

<企画・実施者の所感>

2025年度研修Bは、昨年度同様、子どもの日本語教育支援が初任～比較的経験の短い方を対象に全3回で企画しました。子どもたちの心身の成長発達をふまえながら、縦と横の学びをつなげることで、子どもたちが自分らしく過ごすための支援の姿勢と具体を、講義・事例報告、参加者同士のワークを通して学んでいきます。

6/8(日)第1回は受け入れと初期支援をテーマとしました。参加者には本ユニット作成の動画を事前視聴してもらい、講義ではそのポイントを振り返りながら、子どもの日本語教育に関する施策を概観した後、受け入れにあたっての注意事項や工夫、成長と概念形成との関係、それらを念頭においたコース設計や教え方の違いを扱いました。続く事例報告は豊橋市の初期支援コース「みらい西」の実践を坂柳先生にご担当頂きました。「みらい西」では小2～中3の子どもたちを特別の教育課程を編成して受け入れています。プログラムの全体像をご紹介頂いた後、小学生・中学生での素材の扱いや教え方の違いを、豊富な写真で具体的に提示していただき、動画や講義がより鮮明に参加者の学びとなりました。また、在籍校登校日に学んだ日本語を使って行う「ミッションポッシブル」や保護者との連絡の取り方も、母語支援が無い現場の参加者にも学びをつなぐ取り組みとして大変参考になるものでした。

後半のことばづくりワークでも前半の学びを意識しながら意見交換されていました。活発な質疑からも参加者の熱意と現場の喫緊性が伝わる回となりました。事例報告者の坂柳先生、ご参加いただいた皆さまに感謝申し上げます。

4 資料（URL にアクセスすれば、ダウンロードできます）

- ① [研修 A 趣旨 齋藤ひろみ 東京学芸大学](#)
- ② [講義資料／グループワーク課題提示 谷啓子 東京学芸大学](#)
- ③ [報告資料 坂柳言衣 豊橋市立羽田中学校・豊橋市教育委員会初期支援コース「みらい西」](#)